

平成30年度 相談支援に関する取組について

福祉保健部 福祉課

1 相談支援事業の委託に関すること

委託業務内容

- 1 福祉サービスの利用援助
- 2 社会資源を活用するための支援
- 3 社会生活力を高めるための支援
- 4 ピアカウンセリング（※）
- 5 権利の擁護のために必要な援助
- 6 専門機関の紹介
- 7 三条市地域自立支援協議会の運営

※自立生活を実践している障がい者自身がカウンセラーとなり、社会生活上必要とされる心構えや生活能力の習得に対する個別的援助、支援を実施すること

委託先

- (福)県央福祉会 相談支援センターハート
- (福)三条市手をつなぐ育成会 相談支援事業つなぐ
- (福)ひめさゆり福祉会 相談支援事業所ひめさゆり
- (福)青空福祉会 相談支援センター青空

事務局会議

- 1 開催回数 11回（毎月1回程度）
- 2 出席者 委託相談支援事業所、市、その他議事により関係する関係機関
- 3 内容
 - (1) 地域自立支援協議会の資料調整
 - (2) 地域課題の整理
 - (3) 各種会議の開催準備
 - (4) 計画相談に関する事務改善に関すること

1 相談支援事業の委託に関すること

研修会の開催

相談支援専門員・関係者のスキルアップ

- 【第1回】
- 1 開催日 平成30年5月18日（金）
 - 2 出席者 市内相談支援事業所、地域包括支援センター、市等
 - 3 内容 高齢福祉サービスと障がい福祉サービスの両制度について講義形式で研修
- 【第2回】
- 1 開催日 平成30年8月24日（金）
 - 2 出席者 市内相談支援事業所、市内障がい福祉サービス事業所、市等
 - 3 内容 行動障がい者に対する支援体制について講義形式で研修
- 【第3回】
- 1 開催日 平成30年12月18日（火）
 - 2 出席者 市内相談支援事業所、地域包括支援センター、市等
 - 3 内容 高齢の親と障がいを持つ子の家庭を支える支援について事例を基にグループワークを通じ検討

情報交換会の開催

卒業生の進路に関する支援者の連携

- 【第1回】
- 1 開催日 平成30年7月12日（木）
 - 2 出席者 特別支援学校等の進路指導担当者、市内障がい福祉サービス事業所、市等
 - 3 内容 3年生の進路希望状況やサービス事業所の空き状況等について情報交換
- 【第2回】
- 1 開催日 平成31年2月22日（金）
 - 2 出席者 同上
 - 3 内容 1・2年生の進路希望状況やサービス事業所の空き見込等について情報交換、受入れに向けたケース検討

2 基幹相談支援センター開設準備に関すること

計画推進部会（相談支援）

- 【第1回】
- 1 開催日 平成30年7月5日（木）
 - 2 出席者 部会員、市
 - 3 内容 基幹相談支援センター開設準備に伴う作業部会の開催について検討
- 【第2回】
- 1 開催日 平成30年10月9日（火）
 - 2 出席者 部会員、作業部会代表相談支援専門員等
 - 3 内容 基幹相談支援センター開設準備に伴う作業部会の進捗確認

計画推進（相談）作業部会

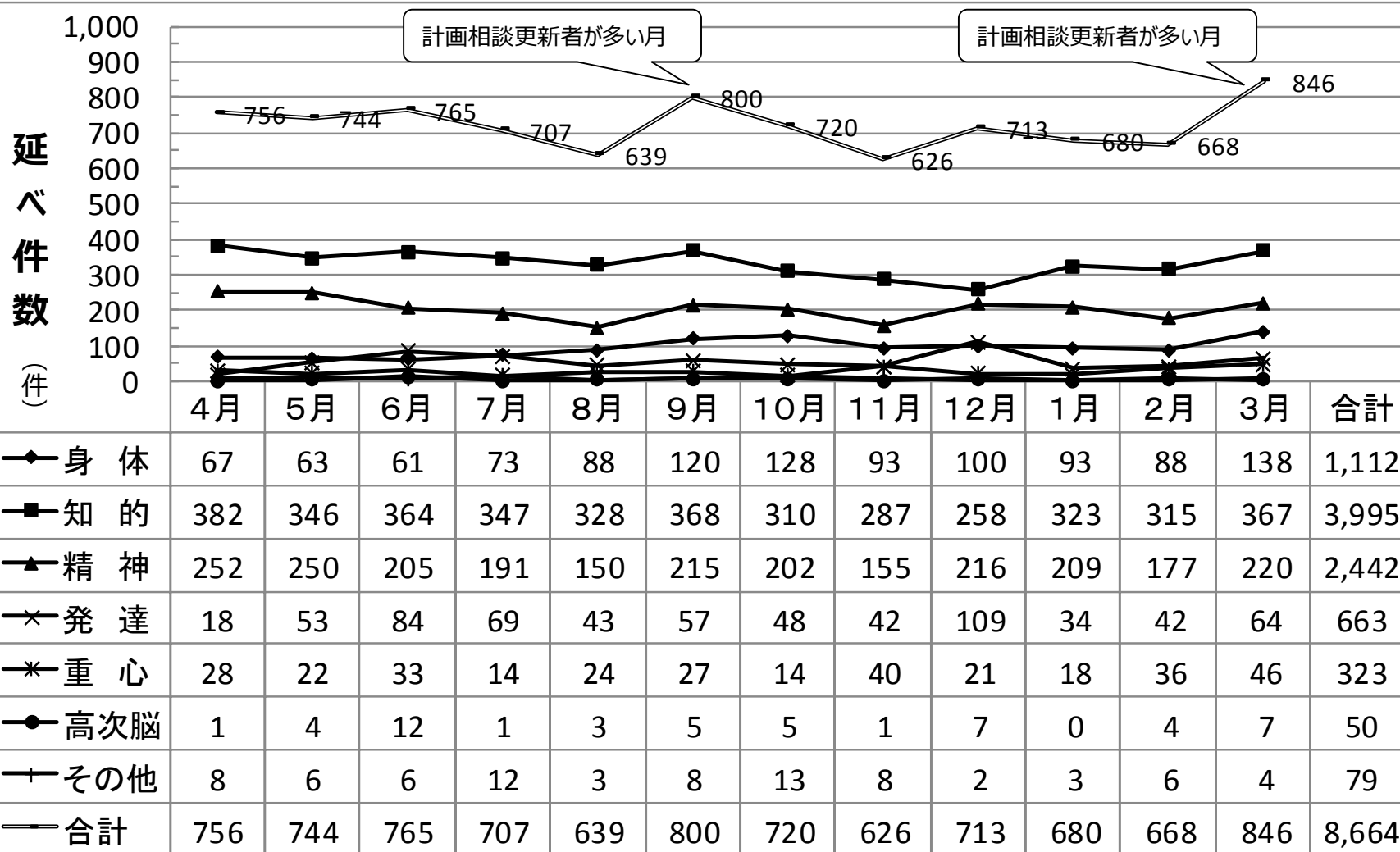
- 【第1～4回】
- 1 開催日 平成30年8月6日(月)・9月10日(月)・12月6日(木)・平成31年1月10日(木)
 - 2 出席者 市内指定相談支援事業所、県央圏域地域生活支援センター、市
 - 3 内容 基幹相談支援センター開設に向けた付与機能の検討
- 【先進地視察】
- 1 視察日 平成30年10月31日（水）
 - 2 視察者 同上
 - 3 内容 基幹相談支援センターを既に開設している先進地（小千谷市・長岡市）へ視察

3 相談支援活動の状況（平成29年度）

(1) 相談件数の推移

※「その他」とは、障がい手帳をお持ちでない方や自立支援医療（精神通院）を受けていない方を含む

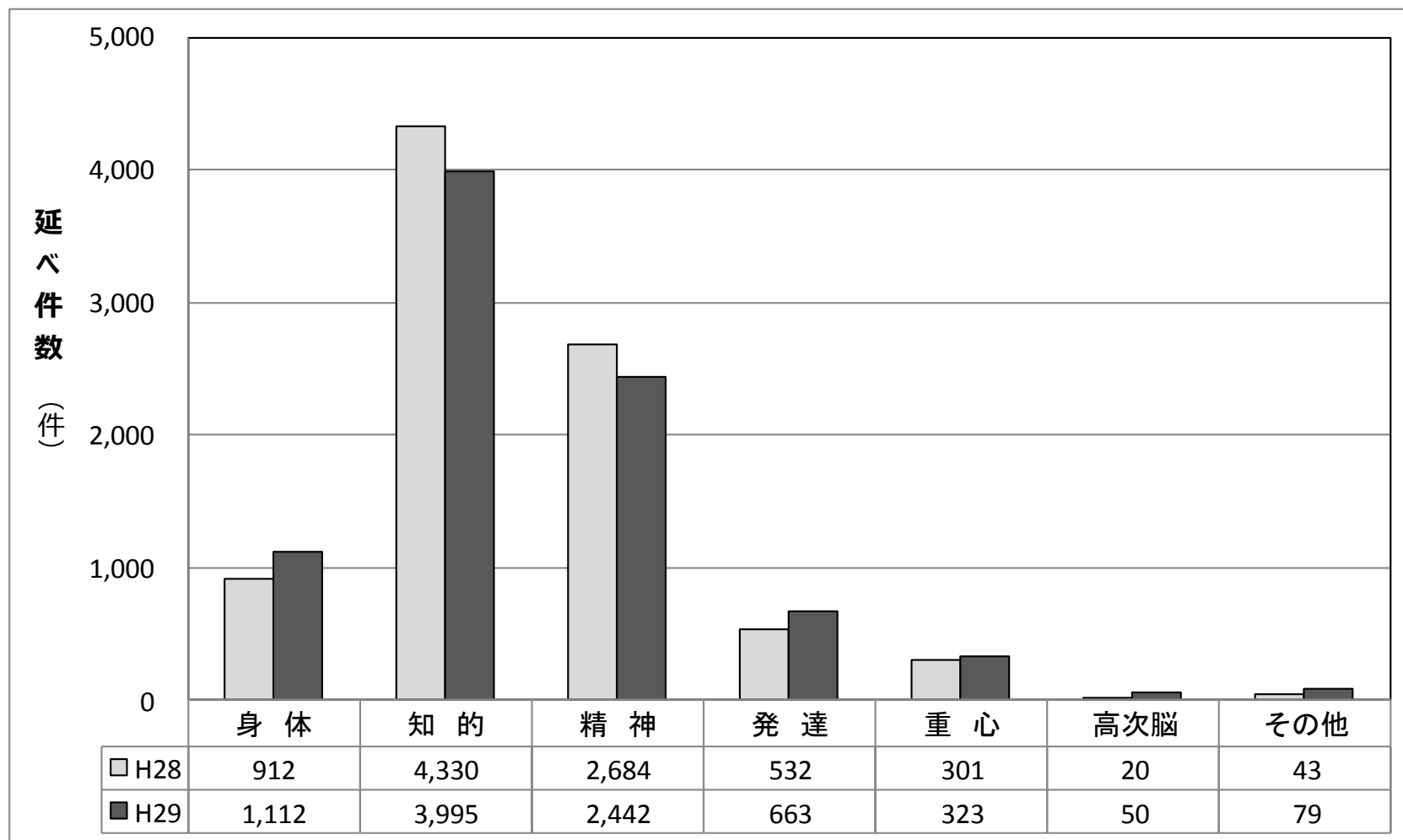
- 相談件数は知的障がい、精神障がい、身体障がいの順に多い傾向にある
- 相談件数の最も多い**知的障がい**は、全体の**約46%**を占めている
- 重症心身障がい、高次脳機能障がい、その他※は全体の**約5%**で相談件数は少ない傾向にある



3 相談支援活動の状況（平成29年度）

（2）相談件数の比較

- 前年度（平成28年度）と比較すると、前年比約98%と相談件数は微減していますが、身体障がい、発達障がい、重度心身障がい、高次脳機能障がい、その他の種別で増加しており、依然として相談件数は多い水準となっている
- 伸び率の順は、高次脳機能障がい（前年比250%）、次いでその他障がい（前年比約184%）となっている



3 相談支援活動の状況（平成29年度）

（3）相談内容の傾向

- 相談内容別で見ると、障がい福祉サービスの利用に関する相談の件数が多く、全体の約60%を占めており、障がい種別全てにおいて多い傾向にある

- 身体、知的、精神障がい別では、主に次の傾向が見られる
 - 身体障がい 健康・医療に関する相談、家族関係・人間関係に関する支援が、他の相談に比べ多い傾向にある

 - 知的障がい 不安の解消・情緒不安定に関する相談が、他の相談に比べ多い傾向にある
他の障がい種別に比べると、不安の解消・情緒不安定に関する相談や生活技術に関する支援など相談内容が多様かつ件数が多い傾向がある

 - 精神障がい 健康・医療に関する相談、不安の解消・情緒不安定に関する支援が、他の相談に比べ、多い傾向にある

※各障がい別・内容別の相談件数については、7ページに掲載

3 相談支援活動の状況（平成29年度）

（4） 相談内容集計表

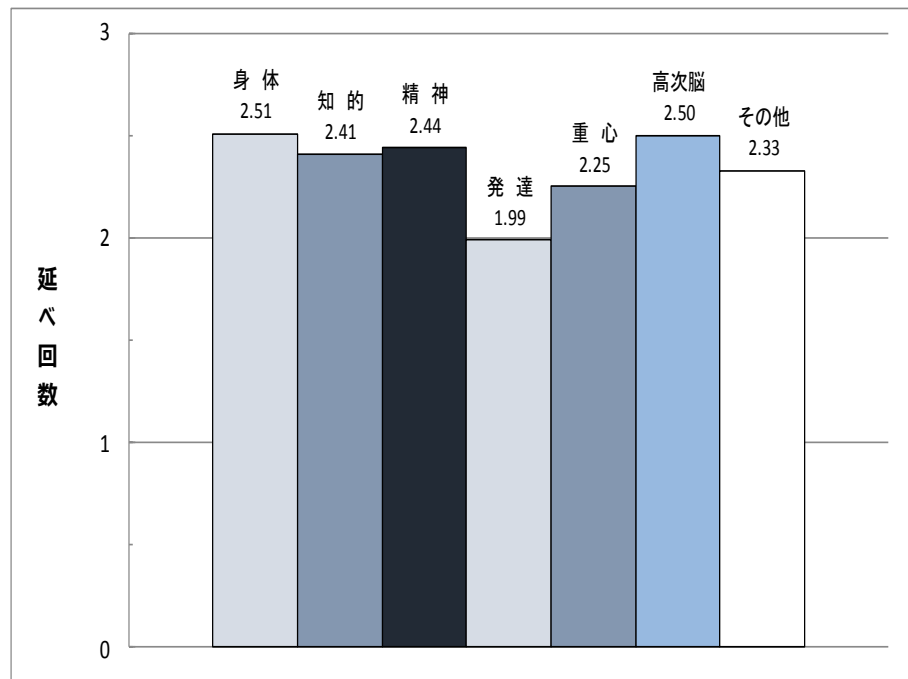
（件）

種別	相 談 内 容 別											
	福祉サービスの利用等に関する	障がいや病状の理解に関する	健康・医療に関する	不安の解消・情緒不安定に関する	保育・教育に関する	家族関係・人間関係に関する	家計・経済に関する	生活技術に関する	就労に関する	社会活動・余暇活動に関する	権利擁護に関する	その他
身体	1,257	45	292	54	13	145	37	78	23	16	10	59
知的	5,066	298	382	666	53	367	232	364	277	117	115	175
精神	1,722	153	646	303	16	290	90	311	146	71	35	77
発達	845	70	61	33	117	84	12	9	12	7	21	6
重心	488	2	12	0	10	1	0	1	0	0	0	1
高次脳	81	8	11	4	3	5	0	0	0	0	0	3
その他	98	4	8	1	7	0	0	8	0	0	0	4
計	9,557	580	1,412	1,061	219	892	371	771	458	211	181	325

3 相談支援活動の状況（平成29年度）

(5) 1人当り月平均相談回数

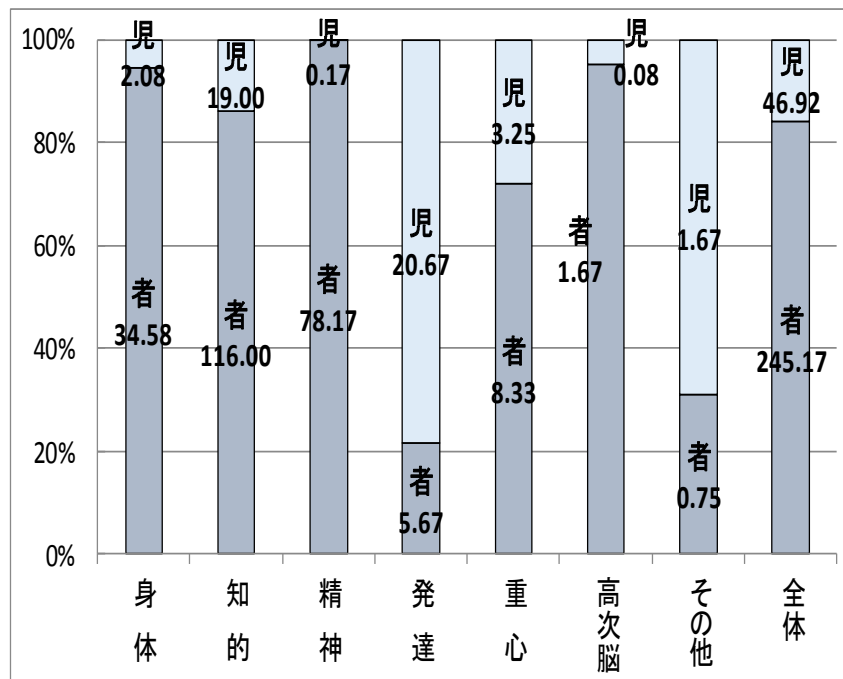
(回)



- 平均相談回数の多い順から身体障がい、高次脳機能障がい、精神障がい、知的障がいと続いている
- 平均回数が最も多い身体障がいは**2.51回**である

(6) 月平均相談実人数

(人)



- 障がい種別に応じた月平均実人数の割合である
- 発達障がいについて、者よりも児についての相談が半数以上を占めている

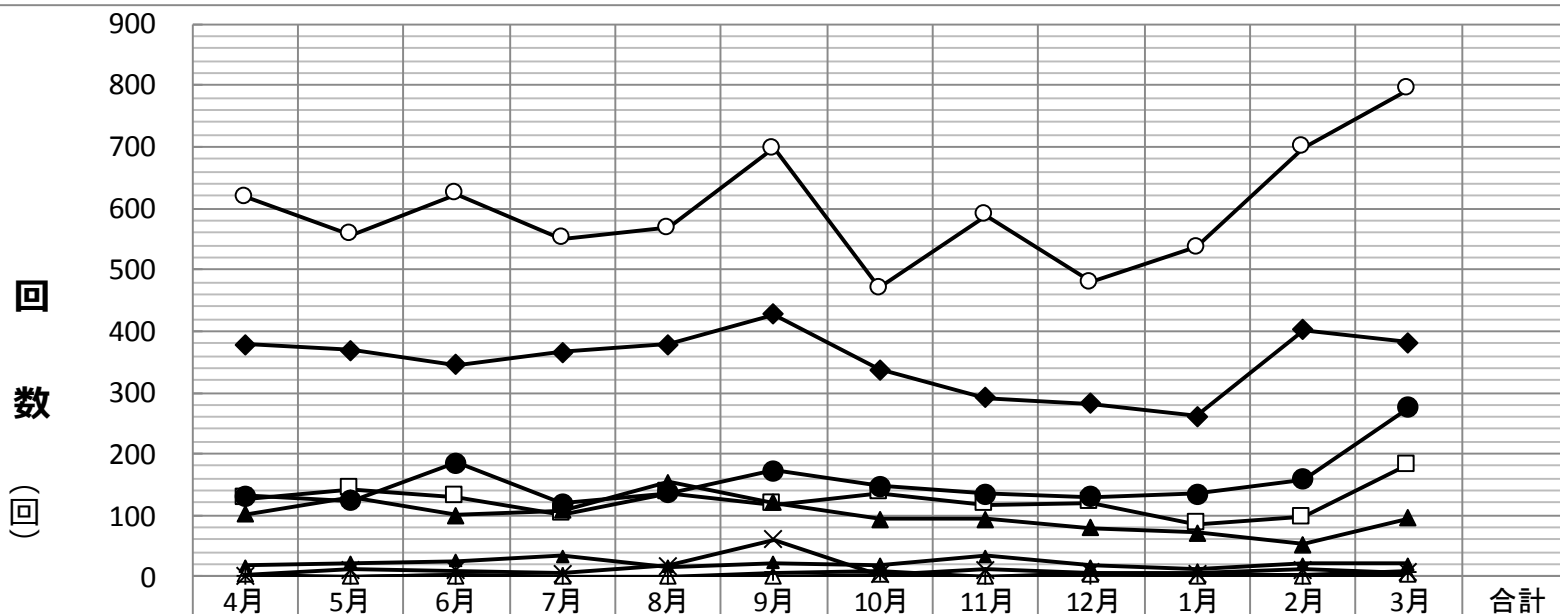
○ 算出式

$$\text{平均相談回数（月単位）} = \frac{\text{延べ相談件数の合計}}{\text{相談実人数（月単位）の合計}}$$

3 相談支援活動の状況（平成29年度）

(7) 相談対応の実績

- 対応回数は関係機関（病院・保健所・施設等）との連携、電話相談の順に多い傾向にある
- 支援回数の最も多い関係機関との連携は、全体の約44%を占めている



3 相談支援活動の状況（平成29年度）

(8) 相談対応の比較

- 対応を比較すると、障がい種別に関わらず、関係機関との連携と電話相談が大部分を占めている
- 関係機関との連携の割合が特に多いのは、身体障がい、重度心身障がい、精神障がい、その他となっている

